



owner's manual



お客様へ

この度は PGO SCOOTER G-MAX をお買い上げ頂きまして誠に有難う御座います。

商品に添付されている取扱説明書は英文で作られております。

従って、簡単では御座いますが、機能及び取扱い方法について説明している箇所を

日本語にてご理解頂ける様、本書を作成いたしました。

乗車される前に必ず本書をお読み頂けます様お願い致します。

PGO 日本代理店

NOVEL FORCE INC. JAPAN

内容

安全に運転する為の注意点・・・2	乗車する際の注意事項・・・18
各部名称・・・3	エンジンを始動・・・19
車体識別・・・4	暖機運転・・・19
メインスイッチ操作法・・・5	スクーターに乗るにあたって・・・20
メーターインジケーター・・・6・7	エンジンの慣らし運転・・・21
ハンドルスイッチ操作方法・・・8	駐車・・・21
ハンドルロック・・・9	定期点検・・・22
シートロック・・・9	定期点検スケジュール・・・22・23
フューエルタンクキャップ・・・10	エキゾーストコントロールシステムのメンテナンス・・・24
キックスターター・・・10	エアクリナー・・・25
ラゲッジボックス・・・11	プラグの点検・・・25
運行前点検項目・・・12	ギヤオイル交換・・・26
ブレーキ・・・13	フロントブレーキ点検・・・26
フロントブレーキ・・・13	ブレーキフルード点検・・・27
ブレーキフルード・・・13	フロントフォーク点検・・・27
エンジンオイル量点検・・・14	ヒューズ・・・28
エアクリナー・・・15	バッテリー・・・28
タイヤ・・・16	主要緒元・・・29
スロットルグリップ・・・17	定期点検記録簿・・・30
スイッチ類・・・17	配線図・・・31
燃料・・・17	保証書・・・32・33
触媒・・・18	保証登録書・・・34

安全に運転する為の注意点

▲ 警告

運転時は十分な余裕を持ち、以下の用件に留意する必要があることを予め了解下さい。

安全運転のために

1. 運行前点検は必ず実行し、修理が必要であれば修理をしてから運行してください。
2. 多くの事故は経験の少ないライダーに関係します、慎重に運転しましょう。
3. 乗車時は運転操作を妨げない服装で、明るい色の物を着用しましょう。他の運転者の死角に入らないようにしましょう。
4. 交通法規を遵守してください。過度な速度は事故につながります、速度は控えめにしましょう。
5. 他の交通に迷惑を掛けない様に気を付けましょう、交差点や駐車場の出入り口等は特に注意が必要です。
6. 乗車時はハンドルをしっかり持ち、足はステップボードに乗せ、正しい姿勢で乗りましょう、後席に乗車させる人はステップに足を乗せ保持してください。
7. エンジンを掛けたまま車両から離れないようにしてください。
8. 悪路を走行する時はスピードを落とし、強い衝撃を受けないよう操作してください。

各部名称



車体識別

車体を識別する為にフレームナンバーとエンジンナンバーがあります。

1. フレームナンバーは右側のフロントインナーカバー内に打刻されています。



2. エンジンナンバーはベルトケース後端部に打刻されています。



※ フレームナンバー及びエンジンナンバーは部品の注文時に必要なだけでなく、盗難等に遭われた時に車体識別の為に必要です、メモなどにして保管されることをお勧めいたします。

メインスイッチ操作方法

1. メインスイッチ・・・点火及び灯火類のスイッチ及びシート開閉とタンクキャップ開閉のすべてを操作出来る集中操作型です。

"○" スイッチがオンの位置でエンジンの始動が出来ます。

キーを抜くことは出来ません。

"⌂" スイッチがオフの位置でエンジンを停止出来ます。

キーを抜くことが出来ます。

"⊗" ハンドルロックの位置でハンドルを左に切ったときのみ鍵をこの位置まで回せます、キーを抜くことが出来ます。

2. シートオープン

"○" "⌂" "⊗" ←いずれの位置からでも 押しながら左に回すとシートを開けることが出来ます。

3. タンクキャップ

"⌂" オフの位置からのみ、押しながら右に回すとタンクキャップを開けることが出来ます。

メーターインジケータ

1. シグナルインジケータ (グリーン)

ウインカー点灯時に点灯します。

2. ハイビームインジケータ (ブルー)

ヘッドライトの切り替えを HI にした時点灯しハイビームであることを表します。

3. エンジンオフインジケータ

このインジケータランプ点灯時はエンジンの始動が出来ません。

4. スピードメーター

5. フューエルゲージ

フューエルゲージはタンク内のおおよその燃料残量を表示します。針が F (full) の位置を指した状態で約 7L の残量を表しています。

針が赤い部分を指しているとき、残量は約 1L です、早めの給油をお勧め致します。

6. タコメーター

エンジン回転数を表します。(指示数値×1000/毎分)

7. デジタルクロック

車両のバッテリーを電源としているため電池交換の必要がありません。

しかし、バッテリー交換や修理、メインヒューズ切れ等でバッテリー電源が絶たれた場合は再度時刻合わせをしてください。

a. クロックモードボタン 表示切替に用います。

b. クロックアジャスティングボタン

表示数値調整に用います、押した回数だけ数値が増加します

8. 積算走行距離計

9. 2ストローク用オイル警告等

2ストロークエンジン搭載車用インジケータの為、Alloro 125 では使用しません。

10. オイル交換推奨インジケータ

枠内の色が赤に変わったらオイル交換次期です、早めの交換をお奨め致します。

交換後は写真2の3の位置にある差込み穴へ鍵を差込み、表示をグリーンにリセットしてください。



図 1

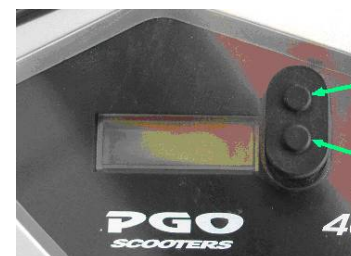


図 2



図 3

ハンドルスイッチ操作方法

1. HI/L0 ビームスイッチ

HI・・・ハイビームがオンの状態です。

L0・・・ロービームがオンの状態です。

スイッチが L0 側にあるとき、さらに下向きにスイッチを押すとパッシングさせることができます。

2. ターンシグナルスイッチ

ウインカーを出したい方向へスイッチを押し込むとウインカーを作動させることが出来、戻すときは中立の位置で真ん中のボタンを押すとキャンセルできます。

3. ホーンスイッチ

スイッチを押すことにより、ホーンを鳴らすことができます。

4. エンジン RUN/OFF スイッチ

下側に押すとエンジンを掛からない状態に出来、上側に押すとエンジンを始動出来る状態にします。

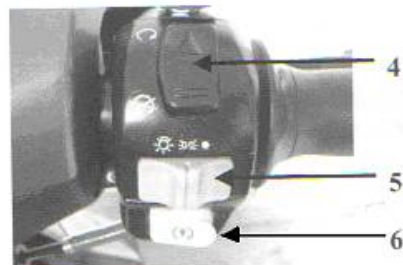
5. ヘッドライトスイッチ

ヘッドライトを OFF⇄ポジション⇄ON に切り替えるスイッチです、日本仕様はヘッドライト常時点灯の為作動しません。

6. スターターボタン

エンジン始動させるボタンです、単独では作動しません、左右どちらかもしくは

両方のブレーキを握りながら押すとエンジンを始動します。



ハンドルロック

ハンドルロックを掛ける為には、まずハンドルを左に切り、次にキーを「」の位置から「」の位置に回す。もし回らない場合はハンドルを少し戻して行う。



シートロック

キーが、どの位置にあっても押しながら左にひねる事でシートを開けることができます。

※注意！

シートロック部にトランク内照明のスイッチが連動されています、ハンドルロックする時に誤ってシートロックを解除してしまうと照明が点灯しバッテリー上がりの原因になりますので、車両を離れるときは必ずシートロックを御確認下さい。



フューエルタンクキャップ

- キーを"O"オフの位置から押しながら右にひねるとフューエルタンクキャップを開けることができます。
- 閉める時は、キャップを上から押し込んでください。



キックスターター

センタースタンドを掛けキックペダルを引き出した状態にします、キックペダルを足で踏み、ゆっくり下に押し下げます。
一番重くなった所で一旦ペダルを上まで戻します。
メインキーがオンの状態になっているか確認し、ブレーキを握ります。
エンジンを始動させる為に強く一番下で止まるまで一気にペダルを踏み込んで下さい。



KICK STARTER

ラゲッジボックス

座席の下がラゲッジボックスになっています。

シートロックが解除されると照明がつきます。車両から離れるときはシートがロックされていることを確認してください、シートが開いていなくてもロックが解除されていると照明は点灯し、長時間放置するとバッテリー上がりの危険性があります。



- ラゲッジボックス内の耐加重は最大5kgまでです。
- 長時間エンジンが作動しているとラゲッジボックス内の温度が上がることがありますのでご注意ください。
- 壊れやすいものは入れないで下さい。
- 雨天や洗車などでボックス内に水が入る場合があります、防水性のある物で包ようにしてください。
- 車両から離れるときは必ずシートロックをご確認ください。

運行前点検項目

車両運行前に必ず以下の項目を点検下さい。

項目	点検内容	ページ
フロント・リヤブレーキ	作動、遊び、液量を点検し補充の場合は FMVSS DOT3(4) または SAEJ 1703 ブレーキオイルを補充してください。	29,40
スロットルグリップ	スムーズに作動するか点検し、必要であれば給油する。	25
タイヤ	空気圧と磨耗状態を点検する。	24
ケーブル類	スムーズに作動するか点検し、必要であれば給油する。	—
ブレーキレバー	スムーズに作動するか点検し、必要であれば給油する。	18
センタースタン	スムーズに作動するか点検し、必要であれば給油する。	—
各部組みつけ	各部取り付け状態を点検し、必要に応じて増し締めや調整を行う。	—
燃料タンク	残量を点検し、必要なら補充する、漏れが無いか点検する。	10
灯火類	点灯確認を行い切れているものは交換する。	25
オイル	オイルレベルゲージでエンジンオイルの量と汚れを点検し必要ならば交換する。メーター内インジケーターも点検すること。 ギヤオイルも点検する。	21,38

ブレーキ

1. ブレーキレバーには適切な遊びが必要です、約 10～20 mm遊びがあることを確認し、少なすぎたり多すぎる場合は、最寄の PGO 取扱店で点検を受けてください。
2. ブレーキを数回掛け、離れた時にホイールが軽く回るか点検する。
回転が重い場合はブレーキパッドの戻りが悪い可能性がありますので、最寄の PGO 取扱店で点検を受けてください。



フロントブレーキ

ハンドルを持ちレバーを握り機能していることを確認してください。

作動時に違和感がある場合は速やかに PGO 取扱店で点検を受けてください。

※ 運行前点検を怠ると何らかの不具合が生じる危険がありますので必ず点検を行い必要な修理、調整を毎日でも実行してください。

ブレーキフルード

ブレーキフルードの量はハンドルカバー横から覗き込むと点検窓により点検できます。リザーバータンクを水平にしてから点検して下さい。

補充が必要な場合は FMVSS DOT3 または SAE J1703 の物を補充してください。

また、ブレーキホースやホース接続部分等に於いて液漏れを発見した場合は絶対に運行せず。速やかに PGO 取扱店で点検・整備を受けてください。



ブレーキパッド

ブレーキフルードの減少及び握ったときの違和感はブレーキパッドが減ったことに起因する場合があります、速やかにPGO取扱店で点検を受けてください。

＊ ブレーキパッド交換は有資格者に委託してください。

エンジンオイル量点検

4T エンジン

- エンジンオイルは初回300kmで、その後1000km毎に交換してください。
- オイルレベル点検は平坦な場所で暖気後2～3分経ってから行う。
- オイルレベルゲージのロウレベル以下にならないようにオイルを補充して下さい。



エアクリーナー

エアクリーナーは空気中の埃を取り除き磨耗度合い軽減に重要な部品です。常に清潔であるようにあなた自身もしくはPGO取扱店で定期的なメンテナンスを行ってください。



ペーパーフィルターエレメント

タイヤ

タイヤの性能を保持し磨耗を抑える為に以下の点に留意してください。

1. 空気圧

空気圧は基準値を守りましょう。

※ 空気圧の測定は走行前に行い、外気とタイヤ内空気の温度差が生じない状態で測定してください。また、外部からの圧力も正確な測定の妨げになります。

空気圧の基準値は 前輪：2.0kg/cm² 後輪：2.0kg/cm² です。



空気圧が高い場合



空気圧が低い場合

2. 簡単な点検

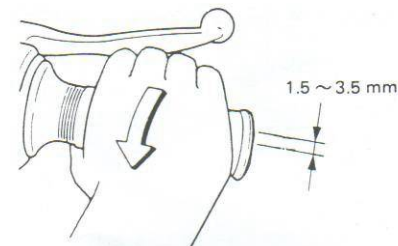
乗車前にタイヤの外観を点検し過度の磨耗や釘など刺さっていた場合は、速やかに PGO 取扱店で点検・整備を受けてください。

3. タイヤ溝の深さチェック

過度に磨耗したタイヤは大変危険です、溝の深さが十分ないと、泥や濡れた路面で顕著に滑ります。溝の深さを点検し0.8mm以下になったら速やかに交換しましょう。

スロットルグリップ

- スロットルグリップを操作し遊び量と作動状態を確認して下さい。
- 手を離れた時、速やかに元の位置へ戻るか確認して下さい。調整方法は PGO 取り扱い店へお問い合わせ頂くか依頼して下さい。



灯火類

スイッチを操作し、すべてのランプ、バルブ、インジケーターが作動することを確認して下さい。

スイッチ類

スイッチを操作し、作動を確認して下さい。

燃料

燃料が十分にあるか確認して下さい。

タンク容量は7.5Lです。

※ 注意！

1. 燃料は無鉛ガソリンを使用して下さい。
2. 給油口の細くなっている部分までガソリンを満たさないで下さい。あふれてしまう危険性があります。

触媒

触媒は排気ガス中の有害物質を低減させる為の装置で、排気管内に設置されています。



1. 走行直後のマフラーは高温になり危険です、駐車する時は周りに燃えやすいものが無い事を確認し、なるべく歩行者などから遠ざけて駐車してください。
2. 燃料は必ず無鉛のガソリンを給油してください。
3. 走行中や空ぶかし直後にメインスイッチをオフにしないで下さい。未燃焼ガスが触媒を過度に加熱させ機能低下に繋がります。
4. 燃えやすい物の上での走行、駐停車はしないで下さい。
5. 常に良好なエンジン状態を保ち、異常燃焼で触媒を過度に熱を持たせないようにしてください。
6. 触媒が正常な作動を続ける為に、定期点検を心掛けてください。

乗車する際の注意事項

1. 乗車する前にすべての操作システム及び機能を把握してください。又、何らかの問題がある場合はPGO 取扱店にご相談下さい。
2. 締め切った場所でエンジンを掛けしないで下さい。
3. 乗車前にサイドスタンドを必ず確認して下さい、サイドスタンドを出したまま走行すると大変危険です。

エンジン始動

1. エンジン RUN/OFF スイッチが RUN の位置にあることを確認し、メインキーを"O"の位置まで回してください。
2. スロットルグリップ全閉状態でブレーキレバーを握り、スタートボタンを5秒以内に押して下さい。もしくはキックスターターを操作して下さい。



※ 注意！

エンジンが掛からない時でも、連続して5秒以上スタートボタンを押し続けないで下さい、電気系統に過大な負荷が掛かり故障の原因になります。スタートボタンで始動できない場合はキックスターターで始動するようにしてください。

暖機運転

エンジン保護の為に運行前に1～3分程度アイドリングをしてエンジンを暖機して下さい。

始動直後で暖まらないうちに負荷を掛けないようにして下さい。

☆ 新車購入直後の場合は“エンジンの慣らし運転”のページをよく読み、まず慣らし運転を行って下さい。

スクーターを乗るにあたって（暖機終了後）

1. リヤブレーキを握ったままセンタースタンドを上げてください。
2. 正しい乗車姿勢でシートに座り、バックミラーを調節してください。
3. 周りの交通状況を確認後、発車の合図を出してから発車しましょう。
4. ゆっくりスロットルグリップを操作し、発車出来たら合図を戻しましょう。

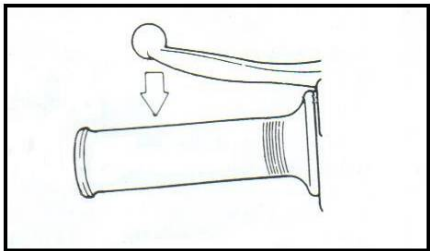
スロットル操作

スロットルグリップを手前に捻ると増速し、戻すと減速します。スムーズな操作を心掛けましょう。

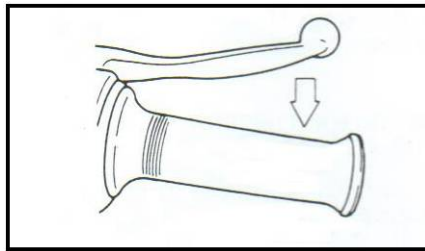


ブレーキ操作

1. スロットルグリップを戻して下さい。
2. 前後ブレーキをゆっくり握って下さい。



リヤブレーキ



フロントブレーキ

※ 注意！

1. 滑ったり、転ぶ恐れがあるので急ブレーキは避けて下さい。
2. 車体が傾いている時は特に注意して操作しましょう、不用意な操作は転倒等の原因になります。
3. 未舗装路やマンホール、濡れた路面等は滑りやすい為スピードを落としてください。
4. 濡れた路面や下り坂ではブレーキが効きづらくなります、十分減速して下さい。

エンジンの慣らし運転

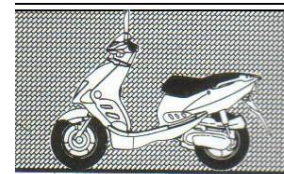
新車から 1,000 k m まではスクーターの寿命に一番影響する時です、1,000 k m を超えるまでは過大な負担を避け、出力の半分程度で走行しましょう。

エンジン各部が適切なクリアランスを確保出来るように、過大な負担や急激な動作は避けましょう。

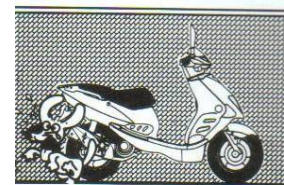
1. 0～150 k m スロットル開度は1／2以下にして下さい。1時間に5～10分程度エンジンを冷やすようにし同じ速度を長時間保持しないで、速度を変えながら走行します。
2. 150～500 k m 長時間スロットル開度1／2以上で保持しないで下さい。
※ 300 k m で一度エンジンとギヤのオイルを交換して下さい。
3. 500～1,000 k m スロットル開度3／4以下にして下さい。
4. 1,000 k m 以上 長時間全開で走行しないようにして下さい。

※ 注意！ 慣らし運転中に何か問題が起きた場合、PGO 取扱店にご相談下さい。

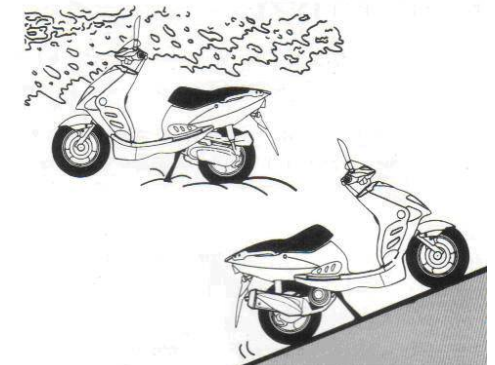
駐車



正しい止め方



誤った止め方



誤った止め方

※ 注意！ 走行直後はマフラーが非常に熱くなっている為、子供や歩行者から出来るだけ離して駐車して下さい。

坂道や地盤が不安定な場所は転倒する危険性がある為駐車しないで下さい。

この車輛は安全の為サイドスタンドスイッチを装備している為、サイドスタンドが出ている状態ではエンジンが掛かりません。

定期点検

性能を維持し安全に運転をする為に、定期点検を励行し定められた期間に点検、調整
潤滑油の補充・交換を行って下さい。

安全運転は運転者の義務です、メンテナンスと油脂類の補充は常に意識し、偶発的な
事故以外の重要な予防措置と認識ください。

※注意！ 舗装路の走行を目的にデザインされていますので、悪路や濡れた
路面を走行する時は、エンジンの消耗が早まるのでエアクリーナー
を頻繁に掃除して下さい。

点検や整備についてご不明な点がある時は、PGO 取扱店へお尋ね下さい。

定期点検スケジュール

項目	内容	定期点検と走行距離による点検						
定期点検月		1	3	6	9	1 2	1 5	1 8
走行距離		300	3000	5000	8000	10000	13000	15000
エンジンオイル*	交換（800cc） 全容量（900cc）	○	1000 k m毎に交換。					
オイルフィルタ	交換	○	5000 k m毎に交換					
オイル ストレーナー*	清掃又は交換	○	3000 k m毎に清掃又は交換					
エアクリーナー	清掃又は交換		○	○	○	○	○	○
ギヤオイル*	交換（90cc） 全容量（110cc）	○	○		○		○	
ブレーキ	作動と液漏れ点検		○	○	○	○	○	○
クラッチシュー*	点検又は交換		○	○	○	○	○	○
タイヤ	磨耗点検又は交換		○	○	○	○	○	○
車軸*	点検・増し締め		○	○	○	○	○	○
F フォーク*	機構及び液漏れ点検	○	○	○	○	○	○	○
ステムベアリン*	ガタ点検・増し締め			○		○		○

“*” マークの項目は PGO 取扱店にて点検・整備を依頼して下さい。

項目	内容	定期点検と走行距離による点検						
定期点検月		1	3	6	9	1 2	1 5	1 8
走行距離		300	3000	5000	8000	10000	13000	15000
サスペンション*	作動と液漏れ点検	○	○		○		○	
メイン・サイド スタンド	作動点検又は交換	○	○	○	○	○	○	○
各ボルトナット	緩み点検・増し締め	○	○	○	○	○	○	○
バッテリー	電圧点検・電極清掃		○	○	○	○	○	○
バルブ クリアランス*	冷間時に測定する IN・EX 共 0.08mm	必要であれば調整する。						
スパークプラグ*	清掃又は交換			○		○		○
V ベルト*	磨耗点検又は交換			○	A	○	A	○
フュエルフィーデ ィングシステム*	ホースのヒビとブ ロックの点検			○		○		○
アイドル回転数*	1700±100rpm	○	○	○	○	○	○	○
キャブレターアイ ドル A/F*	CO/HC パーセント に従って点検・調整	○	○	○	○	○	○	○

“*” マークの項目は PGO 取扱店にて点検・整備を依頼して下さい。

“A” マークの項目はエンジン性能が著しく低下している場合、点検又は交換して下さい。

※エンジン保護の為に 300 k m走行時のエンジンオイル・オイルフィルター・オイルストレー
ナー清掃・ギヤオイル交換を行って下さい。

※ブレーキフルード交換

- マスターシリンダー分解や、キャリパー分解時には新しいフルードを補充してく
ださい。
- 油量はこまめに点検して下さい。
- マスターシリンダーとキャリパーのオイルシールは2年毎に交換して下さい。
- ブレーキホースは4年毎に交換して下さい。

エキゾーストコントロールシステムのメンテナンス（触媒装着車）

1. 触媒は、燃料・イグニッション・インテーク／エキゾーストシステムを定期的にメンテナンスすることによって、触媒のメンテナンスとなります。
2. エアクリーナーを点検（16ページ参照）
3. スパークプラグの点検（26ページ参照）
4. 燃料システムの点検： フューエルパイプのひび、漏れの点検又は交換。
5. マフラー点検： 排気漏れを点検、必要ならばガスケット交換。
6. アイドリング点検・調整
7. アイドリング A/F 点検・調整：キャブレターの調整は公害防止の為に測定器のある販売店にて行って下さい。

エアクリーナー

4T エンジン（125cc）



エアクリーナー点検時にエアクリーナーボックス内に多くホコリの蓄積が認められるような場合はエンジン出力の低下と燃料消費増大に原因があると考えられます、こまめに点検、清掃を行いましょう。

1. エアクリーナーカバーを外す。
2. エアクリーナーエレメントを外す。
3. 圧縮空気で汚れを吹き飛ばして清掃し、必要ならば交換する。
4. エアクリーナーエレメントを元の位置に戻し、カバーを隙間が開かないように気を付けて取り付ける。

※ 注意！ エアクリーナー分解中にエンジンを掛けないで下さい、ホコリ等がエンジンに吸い込まれ内部を傷付ける恐れがあります。

プラグの点検

スパークプラグはエンジンの重要な部品のひとつです。プラグの状態でエンジンの燃焼状態を知ることが出来ます、プラグの焼け色が薄茶色であればエンジンが良好な燃焼状態であることを表します。もし問題があればPGO取扱店にご相談下さい。

時間の経過と共に熱やホコリで腐食したり焼け焦げたりするので、ある一定期間で新しい物と交換して下さい。

純正指定プラグ： C7E（NGK）プラグキャップ 0.6～0.7mm

点検後は取り付ける前にねじ部とワッシャー部をきれいにしてから取り付けてください。

締め付けトルク： 1.2kg-m

もしトルクレンチが無い時は、手で回るところまでねじ込み、そこから1/4～1/2回転締め付け、後ほどトルクレンチで指定トルクで締め付けを行って下さい。

ギヤオイル交換

- 初回は 300 k m で、その後は 2500 k m ～ 3000 k m ごとに交換して下さい。
- 交換時容量：90 c c SAE140
全容量：110 c c

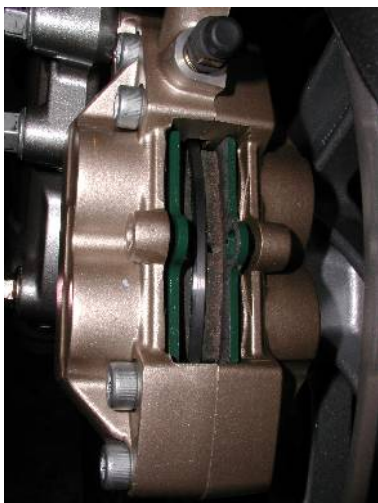


フロントブレーキ点検

フロントブレーキパッドの残量はパッドピンとバックプレートを取り外す事によって簡易点検することが出来ます。パッド中央にある溝が無くなった時が使用限度です。



フロントブレーキパッド



点検状態

※ リヤブレーキ PGO 取扱店にて点検を依頼して下さい。

ブレーキフルード点検

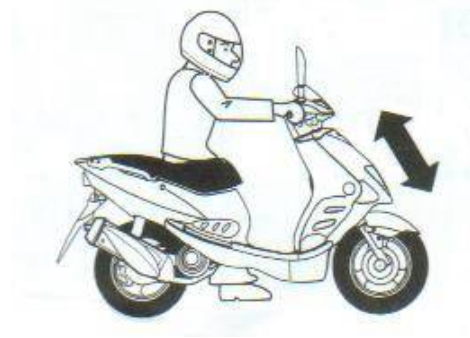
リザーバタンク内のフルード液量が少ないとブレーキ液に空気が入る原因になります。ブレーキ液に空気が混入すると油圧が伝わりにくくなり制動力が著しく低下し危険です、こまめに液量を点検して下さい。

- 1 液量点検時はリザーバタンクが水平になるようハンドルを切ってください。
- 2 ブレーキフルードは必ず指定の規格品を使用して下さい。それ以外の使用はシール類を痛め液漏れの原因になります。
純正指定規格： FMVSS DOT3 or SAE J1703
- 3 補充するフルードは同じ種類の物を使用してください。混ぜる事は避けてください。
- 4 マスターシリンダー内に水が入らないようご注意ください。水が混ざるとフルードの沸点が下がり、フルード内に気泡を生じさせ大変危険です。
- 5 フルードは塗装面を侵食します。こぼしてしまった時は直ちに拭き取ってください。
- 6 ブレーキの整備は資格を持つ整備士に依頼して下さい。

フロントフォーク点検

※ 注意！ アクシデント回避の為に、日常点検を励行して下さい。

- 目視による点検
インナーパイプの傷、損傷、
オイル漏れを点検する。
- 作動点検
車輛を平坦な場所でハンドル
を持ちフロントブレーキを
掛けたまま前後にゆすり、
フォークの作動を点検する。



ヒューズ

1. ヒューズはシート下のラゲッジボックス後ろのカバー内にバッテリー等と一緒に収納されています。
2. シートを開け、カバーを外して下さい、バッテリーの後方に取り付けてあります。
3. ヒューズが断線している場合はメインスイッチを OFF にして、ヒューズが切れた原因を解消してからヒューズを交換して下さい。もしヒューズ交換後メインスイッチをオンにして再びヒューズが断線する場合は PGO 取扱店にご相談ください。

注意！ ヒューズの定格アンペアより大きいアンペアのヒューズを使用しないで下さい。定格アンペア以上のヒューズを使うと配線に強いダメージを与え、発火の原因となり大変危険です。正しいヒューズを取り付けて下さい。



ヒューズ

バッテリー

バッテリーはメンテナンスフリータイプを使用していますので液量の点検及び補充は必要ありません。

万一バッテリー液が漏れている場合は、至急 PGO 取扱店にご相談下さい。

※ 注意！

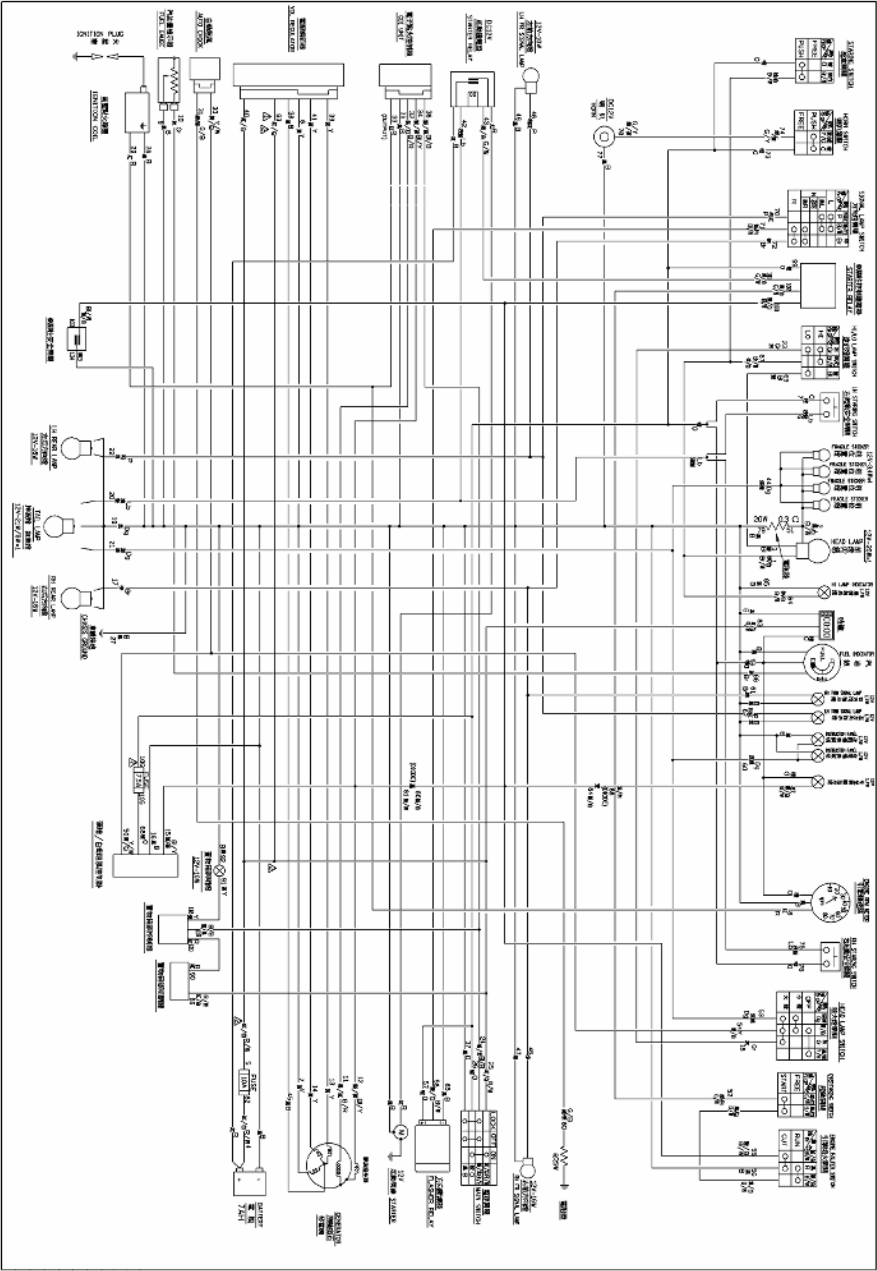
バッテリーのシール（ふた）を取る事は絶対にしないで下さい、バッテリーを損傷させる恐れがあります。

主要緒元			
全長	1855mm	エアクリナー	乾式濾紙フィルター
全幅	730mm	燃料	無鉛ガソリン
全高	1170mm	タンク容量	7.5L
軸距離	1365mm	フロントタイヤ	120/60-13
乾燥重量	133kg	リヤタイヤ	130/60-13
原動機種類	4ストローク	点火方式	CDI
型式	F3	充電方式	フライホイール マグネット
冷却方式	強制空冷	バッテリー	YTX9-BS
気筒数	単気筒	容量	12V-8Ah
排気量	149.5cc	ライト・メーター・スイッチ 電圧/ワット数 必要数	
始動方式	セル、キック併用		
潤滑方式	圧送飛沫式	ヘッドライト (Hi/Lo)	12v 35w/35w ×1
推奨潤滑油	SAE15W40	テールストップ バルブ	12v 5w/21w ×1
容量	0.9L	ポジションラン プ	12v 5w ×1 12v 3w ×1
スパークプラグ	C7E	ウインカーバルブ	12v 10w ×4
クラッチ	乾式CVT	メーターインジ ケーター	12v 1.7w ×2
変速機	Vベルト自動変速式	ハイビームイン ジケーター	12v 1.7w ×1
ギヤオイル 交換容量 全容量	SAE140 90cc 110cc	シグナルインジ ケーター	12v 1.7w ×2

定期点検記録簿

計画	Km	実行	Km	日付	販売店サイン
300					
1,000					
2,000					
3,000					
4,000					
5,000					
6,000					
7,000					
8,000					
9,000					
10,000					
11,000					
12,000					
13,000					
14,000					
15,000					
16,000					
17,000					
18,000					
19,000					
20,000					
21,000					
22,000					
23,000					
24,000					
25,000					

配線図



保 証 書

お買上げ頂いたお車を構成する各部品に材料または製造上の不具合がおきた場合、この保証書に示す期間と条件に従って、下記の保証修理を致します。

一. 保証範囲

1. 保証内容： お車を取扱説明書に従った整備をおこない正常に使われている上で万一、部品に材料または製造上の不具合がおきた場合、無料修理いたします。(保証修理は部品の交換もあります)
(以下この無料修理を保証修理といいます)。 尚、取外した部品は弊社の所有となります。
2. 保証期間 新車を登録または届出した日から1年間もしくは走行距離15,000kmまでのいずれか早い方までが保証期間となります。
3. 保証対象 PGO日本代理店：(有)ナールフォースが販売するPGOブランドスクーター

二. 保証修理の受け方：保証修理をお受けになる場合は、お車とこの保証書をお買上げの販売店へお持ち下さい。これにより保証修理を致します。※提示されない場合は、保証修理をいたしかねます。

三. 保証できない事項：次に示す事項は保証修理いたしません。

- (1) 時の経過で発生する不具合（塗装面等の自然退色、メッキ面などのさび、消耗品の劣化等）
- (2) 機能上影響のない感覚的現象（音、振動、オイルのにじみなど）
2. 次に示す事項は保証修理いたしません。
 - (1) 地震・台風・水害等の天災・事故・火災に起因する不具合
 - (2) 純正部品及び指定する油脂類（オイル・ブレーキ液・冷却液等）以外の使用に起因する不具合。
 - (3) 煤煙・薬品・鳥糞・塩害等に起因する不具合
 - (4) レース・ラリーなどによる酷使或は一般に車輛が走行しない場所での走行に起因する不具合。
 - (5) 法令に違反する改造及び弊社の認めていない改造に起因する不具合
 - (6) 盗難にあったお車
 - (7) 無免許運転に起因する不具合
 - (8) 保管又は整備不良に起因する人為的な不具合

3. 次に示す費用は負担いたしません

- (1) 消耗部品の費用（ライト類・ゴム類・ワイヤー類・ネジ類・ピストン・スパークプラグ・ワッシャー類・ブレーキパット・ブレーキライニング・V型ベルト・ヒューズ・など）
- (2) 油脂類・燃料・バッテリー液などの交換補充の費用
- (3) お車を使用出来なかった事による不便さ及び損失など（電話代・レンタカー代・休業補償・

四. 保証修理をお受けできない事項

1. 法令及び取扱説明書に示す取扱方法と異なる使用方法及び弊社が示す仕様の限度（最大積載量・乗車定員）をこえて使用した場合
2. 下記の点検整備を実施していなかった場合
 - (1) 乗車前の点検
 - (2) 弊社の指定する定期点検
3. 定期点検整備記録簿を保持していなかった場合
 - (1) 定期点検整備記録簿を大事に保管してください

五. 保証の発効

この保証書は、お買上げ頂いた正規販売店が保証登録書に必要事項を記入、捺印することにより有効となります。

六. 保証の継承

保証期間が残っているお車をお買上げの際は、ご購入後、直ちに正規販売店へお車と保証書をお持ちになり、名義の書換え、必要な点検（有料）と必要事項の記入、捺印をお受け下さい。これにより残りの期間を保証いたします。

七. 保証の適用

この保証書は、日本国内で販売し使用されることを前提としております。従って海外へ持出す場合は、その時点で保証が打ち切りとなりますのでご注意ください。

* この保証書は、本書に明示された期間と条件をもとに無料保証をお約束するものです。この範疇を超えたものに関しては、原則として有償となります。

PGO SCOOTER 日本代理店
有限会社 ナールフォース
お問合せ先：
埼玉県戸田市美女木 7-15-6
TEL：048-449-0021 FAX：048-449-0022